



法律専攻「演習」

第3次募集



【目次】

1. [募集について](#)
2. [募集に関する注意事項](#)
3. [選考方法](#)
4. ゼミ内容

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 次 募 集
終了しました。

第 2 次 募 集
終了しました。

第 3 次 募 集	
応 募 期 間	3月29日（月）12時～4月2日（金）12時50分
選 考 期 間	4月3日（土）～4月5日（月）
合 否 発 表	4月6日（火）20時予定 / K-SMAPYⅡにて

【応募方法】

K-SMAPYⅡより

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

2. 募集に関する注意事項

- (ア) 必ず応募期間に応募してください。応募期間外に応募は認められません。
- (イ) K-SMAPY II からの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありますので、必ず K-SMAPY II から応募も行ってください。
- (ウ) ゼミごとに募集対象者が決められています。応募登録前に、募集要項で、自分が応募できるゼミはどれかを必ず確認してください。もしも募集対象外のゼミに応募してしまった場合には不合格となりますので、十分注意してください。
- (エ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (オ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (カ) 演習の具体的な開講曜時は、時間割・シラバスで確認してください。
- (キ) 履修登録の際には、3次募集で応募した演習の開講曜時にほかの科目を登録しないように注意してください。合格した演習とほかの科目が重複した場合、演習が優先して登録されます
- (ク) 政治科目の演習は、政治専攻の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」との合併開講です。
- (ケ) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。

[【目次に戻る】](#)

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
甘利 航司	募集なし					
一木 孝之	・新3年生 ・編入学生	リポート	提出方法	メール送付 taka1@kokugakuin.ac.jp	民法財産法（民法総則・物権・債権総論・債権各論）科目を受講した際、「興味深いけれどわからない」と感じた論点について（（１）「ここまでわかったこと」〈400字〉、（２）「ここからわからないこと」〈400字〉）	(書式)A4 (字数)(1)400字 (2)400字 計800字
			締切日時	4月2日(金)12:00		
		面接	4月5日(月)11:00～13:00		オンラインにて	
稲垣 浩	・編入学生	リポート	提出方法	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp	①最近気になった行政・地方自治の話題 ②本ゼミへの志望動機	(書式)A4用紙(40字×36行) (字数)題目①500字以上800字以内 題目②300字程度
			締切日時	4月2日(金)12:50		
		面接	4月5日(金)13:00～		オンラインにて	
上神 貴佳	・現在ゼミ履修中の現4年生のみ	リポート	提出方法	アンケート画面で回答	本演習を志望する理由	(字数)1,000字
			締切日時	4月2日(金)12:50		
植村 勝慶	募集なし					

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
大江 毅	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	ゼミ志望理由について	(書式)自由 (字数)制限なし
			締切日時	4月2日(金)12:50		
桶田 和子	募集なし					
小原 薫	募集なし					
門広 乃里子	募集なし					
菊田 真司	・現在ゼミ履修中の新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 karita@kokugakuin.ac.jp	自己紹介とゼミの志望理由	(書式)Word形式、A4横書 (字数)800字
			締切日時	4月5日(月)10:30		
			面接	4月5日(月)13:30～14:30		オンラインにて
川合 敏樹	募集なし					
川村 尚子	・新3年生 ・現在ゼミ履修中の新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 naokawamura1989@kokugakuin.ac.jp	自己紹介、民法の財産法分野のなかで興味のあるテーマ、ゼミで貢献できること	(書式)WordA4 (字数)1,500字程度
			締切日時	4月2日(金)12:50		
坂本 一登	・新3年生 ・現在ゼミ履修中の新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp	志望理由と現在関心をもっている政治的出来事について	(書式)自由 (字数)1,000字程度
			締切日時	4月2日(金)17:00		
			面接	4月3日(土)14:00～15:00		オンラインにて

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
佐古田 真紀子	・新3年生 ・現在ゼミ履修中の新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 sakota@kokugakuin.ac.jp	自己紹介、志望動機、ゼミに期待すること	(書式)Word (字数)1,000字
			締切日時	4月2日(金)18:00		
		面接	4月3日(土)13:30～15:00		オンラインにて	
捧 剛	・新3年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 sasage@kokugakuin.ac.jp	指定された英文の内容に対する自分の意見	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	4月3日(土)23:59		
		面接	4月5日(月)15:00～16:00		オンラインにて	
佐藤 俊輔	・新3年生 ・編入学生	レポート	提出方法	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp	①このゼミを希望する理由について ②現在関心を持っている国際的事象について	(書式)A4・Word ファイル (字数)1,000字以上
			締切日時	4月2日(金)12:50		
佐藤 彰一	・現在ゼミ履修中の新4年生 ・新3年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 satosho99@kokugakuin.ac.jp	私の考える社会的排除	(書式)ワード形式A4用紙 (字数)1,000字以上2,000字以内
			締切日時	4月3日(土)12:50		
佐藤 秀勝	・現在ゼミ履修中の新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①志望理由②法に関する最近の話題についてどのような関心をもっているかを述べる③メールアドレス	(書式)特になし (字数)1,000字程度
			締切日時	4月2日(金)12:50		
		面接	4月5日(月)13:30～		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
芝崎 祐典	募集なし					
鈴木 達次	・現在ゼミ履修中の新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	自己紹介文（含む自己アピール）※なお、現ゼミ生は提出不要	(書式)指定なし(字数)1,200字程度
			締切日時	4月2日(金)12:50		
関 哲夫	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 tseki@kokugakuin.ac.jp	以下の(1)及び(2)について、指定した文字数で書いてください。 (1) 結果無価値論と行為無価値論の対立について説明した後、自分の見解を論述しなさい。 〔2,000～2,500字程度〕 ＜参考＞関哲夫『講義刑法総論』（第2版・2018年）43～46頁 関哲夫「日本における結果無価値論・行為無価値論の対立の行方」抜刷 （若木タワー 7 階・0709研究室前の椅子の上にあるので、自由にお持ちください） (2) 刑法ゼミで自分がやりたいこと,やってみたいことを書きなさい。 〔500字程度〕	(書式)A4横書き パソコンで入力すること (総文字数) 2,500～3,000字程度
			締切日時	4月3日(土)正午(12:00)		
高内 寿夫	・新3年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 takauchi@kokugakuin.ac.jp	少年法または少年問題で関心のあるテーマについて	(書式)A4版用紙横書き (字数)300～500字
			締切日時	4月5日(月)12:00		
高橋 信行	・新3年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 n-takaha@kokugakuin.ac.jp	最近の行政法関連のニュースで興味をもったもの	(書式)A4 (字数)1,000字
			締切日時	4月2日(金)12:50		
			面接	4月5日(月)10:00～13:00		オンラインにて

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
高山 奈美枝	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 kym079299@kokugakuin.ac.jp	志望理由	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	4月2日(金)12:50		
羅 芝賢	募集なし					
中川 孝博	募集なし					
中曽根 玲子	募集なし					
長又 高夫	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 nagamata@kokugakuin.ac.jp	前近代の法を学ぶ意味	(書式)自由 ワードファイルにて提出 (字数)400字程度
			締切日時	4月2日(金)12:00		
姫野 学郎	・新3年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①自己紹介（400字程度） ②志望動機（200字程度） ③レポート冒頭に以下を書くこと。 （ア）連絡先LINEのID（なければメールアドレス） （イ）4月3日（土）2時限～5時限、4月5日（月）の2時限～5時限のうち、都合がよい時限（第3希望まで）。 どちらの日にも入れてください。	(字数)左記を参照のこと
		締切日時	4月2日(金)12:50			
			面接	4月3日(土)10:30～12:00、13:00～17:30 4月5日(月)10:30～12:00、13:00～17:30		オンラインにて
平地 秀哉	・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 hirachi@kokugakuin.ac.jp	簡単な自己紹介と本ゼミを志望する理由	(書式)A 4 版横書き 氏名・学籍番号・メールアドレスを明記すること (字数)800字程度
		締切日時	4月4日(日)23:59			
			面接	4月5日(月)15:00～		オンラインにて

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
廣瀬 美佳	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 uh-kun@kokugakuin.ac.jp	自己紹介(関心のある問題等を中心に)&志望理由;送付するメールの件名に「2021年度廣瀬ゼミ志望」と明記すること	(書式)Word文書(拡張子は.docないし.docx)でA4縦・横書/余白は上下左右とも25mm/50字×48行(字数)2,000字
			締切日時	4月2日(金)14:00		
		面接	4月3日(土)14:00～		オンラインにて	
福岡 英明	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 hfukuoka@kokugakuin.ac.jp	興味のある問題とその理由	(書式)メール本文に記載すればよい (字数)約200字
			締切日時	4月2日(金)23:59		
藤嶋 亮	・現在ゼミ履修中の政治専攻の新4年生のみ	レポート	提出方法	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題についてそれぞれ400字程度で	(書式)自由(必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください) (字数)1,200字
			締切日時	4月2日(金)12:50		
		面接	4月3日(土)12:30～16:00		オンラインにて	
宮内 靖彦	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	演習内容参照 miyauchi@kokugakuin.ac.jp	レポートではなく、所定の「面接用紙」に記入してもらいます(手続は演習内容参照)	
			締切日時	演習内容参照		
		面接	4月3日(土)13:30～14:30		オンラインにて	
宮下 大志	・新3年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp	「これまでに最も興味を持った講義」	(書式)自由 (字数)1,200字
			締切日時	4月2日(金)13:00		
		面接	4月3日(土)13:00		オンラインにて	

[【目次に戻る】](#)

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
本久 洋一	募集なし					
岡田 康夫	・新3年生 ・新4年生 ・編入学生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	(1) このゼミへの志望理由 (2) これまで授業で学んだ民法判例の中からもっとも興味を惹いたものを1つ選び、その内容と理由を説明してください。	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	4月2日(金)12:50		
高橋 真人	・齋藤隆夫先生のゼミ履修の現3年生	選考免除(募集のみ)				
森川 隆	・現在ゼミ履修中の新4年生のみ	現ゼミ生のみ募集を行うため、課題提出は不要				

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	一木 孝之
演習テーマ	民法（財産法）判例読解
演習内容	【内容】 前期：3年生は、「これまでに下級審裁判例を読んだことがない、というゼミ生一人ひとりが、最高裁判例を読みこなせるようになるためのトレーニング」を重ねます。 4年生は、判例評釈執筆と、そのための報告を行います。 後期：3年生は、毎回、民法財産法にかかわる最高裁判例を1件取り上げ、担当者のレジメを用いた報告を受けたのち、ゼミ生全員で、そこに含まれる論点を検討します。 4年生は、ゼミ論文執筆と、そのための報告を行います。 【ゼミの雰囲気】 「法学部に入ったのだから、判例が読めるようになりたい」「1年間、民法(財産法)をじっくり勉強してみたい」という人を歓迎します。 *コンパは、年2回程度です。合宿は、ゼミ生からの希望があれば、検討します。新型コロナウイルス蔓延状況次第ですが。 【選考について】 ゼミ面接は、ZOOM ミーティングにて行います。連絡のため、下記アドレス宛にメールを送信してください。 【問い合わせ】 メール宛先：taka1@kokugakuin.ac.jp *PCアドレスからのメールを受信可能なアカウントから送信すること。 *送信時には、件名を付したうえ、署名（学籍番号・氏名）を忘れないこと。
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治の動態分析
演習内容	このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2020年度は、公立図書館、生活保護、空き家問題、コンテンツツーリズム、災害対策など、身近な地方自治に関する文献を読んできました。また、現役公務員のゲストスピーカーによる地籍調査についての報告とディスカッションのほか、都内・都内近郊での学生による現地調査など、コロナ禍の中、可能な範囲で「現場」での学びも大切にしています。 2021年度も、2020年度と同様、前期は全員で行政・地方自治に関する図書（主に、『ガバナンス』などの地方自治関係の雑誌に掲載された論文、地方自治関係のテキストなど）を読み、報告者による発表、ゼミ生全員によるコメントペーパー（A4 1枚程度）の提出、少人数でのディスカッションを行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿や、学期中の他大学との合同ゼミなども行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビューなどを可能な範囲で行う予定です。 課題レポートには、取り上げるテーマが「なぜ」気になったのか、応募者のプライバシーを過度に犠牲にしない程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。また、氏名・学籍番号、連絡先のメールアドレスを必ず記載してください。
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	伊藤・出雲・手塚（2016）『はじめての行政学』有斐閣 磯崎・金井・伊藤（2014）『ホーンブック地方自治（第3版）』北樹出版 曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書 辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など
備考	上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考になる文献です。また、行政・地方自治に関する基礎的な知識を習得するため、行政学A・B及び地方自治論A・Bを並行して履修することが望ましいです。 面接は指定の日にはオンラインで行いますが、時間については、応募者とメールにてあらかじめ調整します。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、稲垣からのメールを必ず確認するようにしてください。 また、面接時には、志望動機等のほか、ゼミでの学習に必要な能力について確認するため、これまでの読書経験や最近読んだ本についてお聞きする予定です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一成をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。 近年、平成を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2014年）、薬師寺（2014年）、佐藤・片山（2018年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。 本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。
教科書	小熊英二（編）『平成史【増補新版】』河出ブックス，2014年。 薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など
参考文献	必要に応じて、適宜紹介する。
備考	

教員名	大江 毅
演習テーマ	民事訴訟法演習
演習内容	この演習は、民事訴訟法に関する理解を深めることを最終的な目標とします。ゼミは受講生が創りあげるものだと、担当教員は考えています。具体的な授業スケジュール・使用教材等については、受講生と相談して決めます。なお、2019年度は、ゼミ生の希望により、民事模擬裁判を実施しました（民事模擬裁判の事例も受講生と協議して決めました）。しかし、演習参加人数や新型コロナウイルスの流行状況によっては、必ずしも希望通りにはならないこと、お含み置きください。 今次の募集では、民事訴訟法に関心があり、積極的にゼミを創りあげようとする意欲のある、新3・4年生等を募集します。 ゼミ生の選考は、提出されたレポートを資料として行います。レポートには、ゼミ生の意向を可能な限りゼミ運営に反映させるため、少なくとも、ゼミ志望理由、ゼミで取り組んでみたいテーマないし課題、ゼミへの要望事項について記述し（箇条書きでよい）、K-SMAPYⅡのアンケート画面から応募してください。
教科書	追って指示します。
参考文献	追って指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	荻田 真司
演習テーマ	ベーシックインカムの可能性
演習内容	コロナ感染症が流行して、経済活動が停止した際、一時的であれ、収入を失う人が数多く生まれました。これに対して、政府は、国民全員に10万円の特別定額給付金を配付することで、当面の危機を乗り切ろうとしました。 今回の特別定額給付金のように、所得によらず一定の給付金を国民全員に支給する(ただし、一時的にではなく、継続的に)考え方をベーシックインカム(基礎的所得保障)と呼びます。右派・左派を問わず、以前から議論に上っていたベーシックインカムは、コロナ禍の中で、現実的な政策選択肢の1つとして考えられるようになってきました。 それでは、ベーシックインカムには、どのような長所と問題点があるのでしょうか。ベーシックインカムが主張される背景には、どのような考え方が潜んでいるのでしょうか。来年度の演習では、ベーシックインカムをテーマに、その実現可能性と背景を考えていきたいと思います。 演習は、全員で質疑応答や討論をしながら文献を読んでいく形式で行われます。参加者は、報告や議論によって、毎回積極的に演習に関わってもらいます。また、夏休み以降に、自分の選んだテーマについてゼミ論文を執筆してもらいます。 応募する人は、あなたの人となりを理解することができる「自己紹介」と「ゼミの志望理由」を合わせて800字程度にまとめて、4月5日(月)10時30分までに、メールでkarita@kokugakuin.ac.jpまで送付してください。折り返し、面接用のZoom情報を送付しますので、確認しやすいメールアドレスから送ってください。現ゼミ生には、別途指示します。 なお、選考にあたっては、積極的に参加する意欲のある人を優先します。
教科書	ルトガー・ブレグマン、『隷属なき道』、2017年 ガイ・スタンディング、『ベーシックインカムへの道』、2018年 アニー・ローリー、『みんなにお金を配ったら』、2019年 デヴィッド・グレーバー、『ブルシット・ジョブ』、2020年 など(全部読むわけではありません)
参考文献	原田泰、『ベーシック・インカム 国家は貧困問題を解決できるか』、2015年 井上智洋、『AI時代の新・ベーシックインカム論』、2018年
備考	面接当日に都合が悪くなった場合や、ゼミについての質問や文献等についての質問がある場合には、karita@kokugakuin.ac.jpまでメールで申し出てください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	川村 尚子
演習テーマ	民法判例演習
演習内容	この演習では、民法のうち主として財産法に関する基本問題を取り上げ、具体的な事例を検討対象としながら、民法の基本的な制度、その趣旨、機能について学習していきます。基本的な知識を習得することはもちろんですが、なにが問題となっているのかを発見し、資料等を調査・収集し検討をおこなったうえで、その結果を説明して議論する力を養うことを目標とします。 具体的には、最高裁の重要判例について担当班にレジュメを用いて報告してもらい、それに基づいて全体で討論をします。担当したがって、担当班以外の受講生にも予習をして積極的に発言することが求められます。どの判例をとりあげるかについては、最初の授業のときにみなさんの意見も聞きたいと思います。学年末に各自が選択したテーマについてレポートを提出します。 評価については、レポート、出席、報告、討論・質疑などを総合的に評価します。 昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため、コンパや合宿はできませんでしたが、例年受講生の希望に応じて、受講生に企画してもらい、実施しています。
教科書	授業時に適宜指示します。
参考文献	授業時に適宜指示します。
備考	原則として、欠席は認めません。 やむを得ない事情がある場合にのみ欠席を認めますが、その際には、必ず事前に川村まで直接連絡するようにお願いしています。 また当然ですが、担当班には、報告の準備のために、班のメンバーと数回話し合ったり、レジュメを作成する機会を授業時間外でとってもらうことになります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	国際関係のなかの日米戦争
演習内容	来年度の前期は、日本の開戦過程を、アメリカやイギリスの動向を踏まえながら、考えていきたい。戦争には、必ず相手が存在し、決して日本側の一方的な意思決定のみによって起こるわけではない。日本はなぜ敗戦が必至の戦争に突入していったのだろうか、その問いを、国内の政治的要因のみならず、国内の経済的要因、さらにはアメリカやイギリスなど国際的要因を加味することでより立体的に考察する。具体的には、まず国内の経済ファクターについて検討した上で、アメリカの動きを考える。一般的に、日米戦争は日本の暴走によって勃発したと見なされることが多い。だが逆に、アメリカ側が日本を戦争に追い込んでいったのではないかという見方も根強く存在する。つぎに、イギリスはどのような対応を、日本の開戦過程においてとったのだろうか。この問題を、イギリスのインテリジェンスつまり国家による情報収集とその分析を中心に考え、日本との比較を行いたい。その後、英米両国と対峙した、日本の陸軍が明治以来どのように発展し変貌をとげてきたのかを見ていきたい。 前期は、報告者を1人決め、その報告を聞いた上で、自由に議論を行う。ゼミ生は、必ず1回は報告する。後期は、小論文を執筆する。自ら選んだテーマについて、その構想を報告し、全員で議論しながら、ゼミ論(12000字程度)を完成させる。報告と小論文の完成は、単位取得の必須の要件である。
教科書	牧野邦昭：経済学者たちの日米開戦：秋丸機関「幻の報告書」の謎を解く（新潮選書） ジェフリー レコード：アメリカはいかにして日本を追い詰めたか：「米国陸軍戦略研究所レポート」から読み解く日米開戦（草思社文庫） 小谷 賢：日英インテリジェンス戦史：チャーチルと太平洋戦争（ハヤカワ・ノンフィクション文庫） 小林 道彦：近代日本と軍部 1868-1945（講談社現代新書） 伊藤 桂一：兵隊たちの陸軍史（新潮選書）
参考文献	その都度、指示する。
備考	演習は、毎回出席が基本である。真面目で熱意のある学生を希望する。 面接の時間が都合悪い場合、メールにて相談してください（kazutos@kokugakuin.ac.jp）

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐古田 真紀子
演習テーマ	民事手続法の判例を学ぶ
演習内容	毎回、民事手続法の判例を取り上げて、その論点を深く掘り下げていきます。民事訴訟法上の論点には、例えば「お寺の住職が解雇されても裁判上の救済は受けられないのか?」「盗んだ日記を証拠として法廷に提出することは可能?」「訴状が誤って被告に届かないまま判決が下されても、被告は判決に服さなければいけないか?」等といったものがあります。ゼミではこうした問題につき、報告担当チームが報告を行った後、ゼミ生全員で質問や意見を出してざっくばらんに話し合いながら、手続法的な考え方を修得していきます。 毎年10月に、北は北海道、南は沖縄まで全国の大学から約18ゼミ300余名の民訴ゼミ生が集う民事訴訟法合同ゼミナールが開催され、この合同ゼミへの参加が当ゼミのメインイベントとなりつつあります。4年生のサポートのもと、3年生は短期間でめきめきと実力をつけ、毎年、佐古田ゼミは他大学のゼミと、楽しく充実した討論を行っています。前日の開会式では各ゼミのゼミ長によるユーモアたっぷりのゼミ紹介があり、また、討論終了後の懇親会では他大学の学生や教員と交流を深めて盛り上がります(2020年度はオンラインで実施)。すっかりその魅力にとりつかれたゼミ生達は、合同ゼミを目標に、年間を通して主体的に計画を立て、お互いに協力し合ってゼミ活動を行っています。
教科書	
参考文献	伊藤眞 『民事訴訟法(第6版)』 (有斐閣) 高橋宏志 『重点講義民事訴訟法上・下(第2版補訂版)』 (有斐閣) 高橋宏志他編 『民事訴訟法判例百選(第5版)』 (有斐閣)
備考	民事訴訟法IAB、民法総則、債権各論、債権総論、物権の講義を履修済みであるか、同時に履修することが必要です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	捧 剛
演習テーマ	ちょっと専門的な英文を読みたい。 ついでに、それをもとに意見を述べてみたい。
演習内容	この演習は、たとえ現在はほとんど英文が読めなくても、種々の目的のために(もちろん、単なる好奇心でも OK です)、英語で書かれたちょっと専門的な文章を読みたい、そして、願わくは、現在よりは、そうした英文をよりよく読めるようになりたいという人向けのものとなっています。 そのために、毎回、事前に配布された英文(おそらく、その多くは新聞記事になると思います)の日本語訳を發表してもらいます(英文の長さや難易度は、参加者の スキルにあわせて調整するつもりです)。そして、その内容について各人が思った こと、感じたことを日本語で述べてもらおうと思っています。 面接(5～10 分程度)においては、主として、なぜ、この演習を志望するのかをお聞きすることになりますが、その際に、自分の「やる気」を示す材料として、以下の URL のいずれかにアクセスして、そこにある英文記事のどれか 1 つに目を通し(詳細に読む必要はありません。また、わからないところは飛ばしてしまってもかま いません)、その記事が扱っている問題について、その概要と自分はどのように考 えるかを日本語で書いたものを提出してください(形式、字数はご自由に。ただし、 どの記事を読んだのかがわかるように、記事の英文タイトルを必ず記載してください)。 (1) https://www.theguardian.com/law (2) https://www.independent.co.uk/voices/ (3) https://www.bbc.co.uk/news/uk
教科書	なし
参考文献	なし(それほど難しくない[と思われる])英文資料(主として、新聞記事)を、毎回配布します。
備考	なし

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 俊輔
演習テーマ	主権国家体系とその変容を考える
演習内容	演習の前期には、国際政治における主権国家体系に生じてきた変化について、理論的な側面からアプローチする。国際政治における主権国家体系と、あるいはその変化の捉え方について、これまでリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなど多様な理論潮流のなかで考察と検討がなされてきたことは論を待たないが、今回の演習では特に英国学派という理論について焦点を当て、検討を行っていきたい。 英国学派は「国際社会」という概念を用いて国際政治を捉えてきた理論潮流であり、その国際社会の拡大という見方はウェストファリア条約以来の国際関係の変化を歴史のなかで捉えなおすことを可能としている。また、そのような英国学派の研究が進展する中で、ヨーロッパからの主権国家体系の拡大という視点を超えて、それ以前の、あるいはその外部の国家体系へとその視角を広げる試みもなされてきた。そのため、やや理論的な側面が強くなるが、国際政治の原理とその変化を捉えようとする重要な潮流のひとつとして、本演習の前期では英国学派について深く学んでいきたい。 その上で、後期にはゼミ論文を書くことをひとつの目標とするが、それと並行して演習の中でさらにEUに関する文献を輪読していくこととしたい。近年度重なる危機に見舞われているEUであるが、やはり域内では地域統合を大きく深化させる中で主権国家体系を変化させてきた側面が指摘できる。そのEUの歴史と制度、そして政策のなかで表れている課題とはどのようなものかを検討していくことにより、国際的な統合がもたらす新たな問題とは何かについて考えていくこととする。 これらの文献の輪読を進めながら、各人には演習のなかでゼミ論文へ向けた研究と、研究に基づくプレゼンテーションを行ってもらうこととします。
教科書	バリー・ブザン『英国学派入門―国際社会論へのアプローチ』日本経済評論社、2017年 池本大輔他『EU政治論』有斐閣、2020年
参考文献	その他の論文や関連書籍について開講時にご案内します。
備考	※上記教科書は予定であり、追加・変更することがあります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 彰一
演習テーマ	生活トラブルと権利擁護をめぐる法と手続
演習内容	日本社会の中で、高齢者・障害者に対する社会的支援は、どんどん重大な課題になってきています。そのキーワードは、権利擁護（Advocacy）です。これらの人々の日常生活は、消費者紛争はもとより、虐待、事故対応、施設契約トラブル、相続・離婚などさまざまな紛争に溢れています。対応としては、訴訟や成年後見制度の利用といった司法制度の利用はもちろん、交渉、調整、など司法以外のさまざまな手段が動員されていきます。福祉や介護、医療の関係者は、権利擁護というタイトルでこうした問題を扱いますが、法律学からこれらのトラブルをみれば、憲法や民法、民事訴訟法に関わる、ごく普通の法律問題です。 成年後見制度や紛争処理の仕組みを学ぶことがメインになりますが、本ゼミでは、理解を深めるためにゼミ論の作成と主要文献の輪読をメインにおきます。 対象となるテーマが、困難な生活の中で生起するものですので、法哲学やケア論などの話題にも関わってくることもあります。
教科書	特に指定しません。
参考文献	特に指定しません。
備考	なお、選考はレポート方式を採用するが、私が書いた文章を参考にすること。ただし現在のゼミ生はすでに読んでいるので、レポートを提出する必要はない。

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 秀勝
演習テーマ	社会と民法の関係を考える
演習内容	1. 演習の目的 ・この演習の目的は、最高裁判例の検討を通じて民法の理解を深めることにあります。皆さんはこれまで、講義等を通じて民法の基本的な知識を身につけてきたと思いますが、それらの知識は、具体的な紛争を解決することができてはじめて「生きた知識」になると言えます。そこでこの演習では、近時の最高裁判例とそれに関する学説を検討すること、他の人とディスカッションすること等を通じて「生きた知識」を身に付けることを目指します。 2. 演習の内容・進め方 ・2021年度は、総則・契約に関する最高裁判例を中心に取り上げる予定です（なお、2022年度には、債権総論、債権各論（不法行為、不当利得など）に関する判例を取り上げる予定です）。ただし、状況に応じて内容を変更することがあります。 ・進め方に関しては開講時に説明します。状況に応じて変更することもあります。いずれにしてもグループ単位で作業やディスカッションを行ってもらう予定です。
教科書	開講時に説明します。
参考文献	開講時に説明します。
備考	1. 次の場合には、演習からの除籍等の対処をします。 ①無断で欠席した場合、②欠席につき連絡をしたが、その理由が欠席を正当化するものとは言えない場合、③正当な事由による欠席を6回以上した場合、④遅刻・早退をした場合（公共交通機関の遅延を除く） 2. 面接に関して （1）面接はオンラインで実施します。連絡先を知る必要がありますので、課題提出の際、アンケート画面での回答に際してメールアドレスを正確に記載してください。 （2）面接では、レポートの内容のほか、民法に関する基本的な事項（※）についても質問する予定です。 （※）次のうち1つをお聞きます：①契約自由の原則（特に契約内容の自由）と制限、②過失責任と無過失責任、③物権と債権の違い。いずれも具体例を使って説明できるように準備しておいてください。 3. その他 ・演習が上述した内容であるため、総則および契約法に関する基礎知識があることが前提となります。なお、2022年度は上記「演習内容」で示したような予定であるため、現2年生のうち本演習を2年間履修する予定の方は、もし今年度「債権総論」、「債権各論B」を履修していないときは、2021年度にこれらの科目を履修するようにしてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	鈴木 達次
演習テーマ	会社法判例研究
演習内容	【内容】 会社法の基礎判例を取り上げて研究を行います。 皆さんの多くは、現在会社法の講義を受けているか、あるいは過去に受けたことと思います。しかし、民法や刑法と異なり、会社法は抽象度が高く、講義だけでは、それがどのように適用されるか、イメージすることは難しかったでしょう。そのためには、具体的な事案（判例）に即して適用関係を学ぶ必要があります。このゼミが会社法の基礎判例を取り上げるのはそのような理由からです。 会社法は会社組織のあり方や取引相手との関係にまつわる法律問題を解決するルールです。大学時代にしっかり学んでおきましょう。 【運営】 司会者の進行にしたがって報告者が基調報告を行い、それに基づいて受講生全員が討論します。報告者はレジュメを用意し、それ以外の方もちゃんと予習をしてくる必要があります。 最初のうちは難解に思えるでしょうが、毎週予習してゼミに臨むことにより、少しずつ問題点が分かってきます。議論も活発にできるようになり、徐々に会社法が面白く感じられるようになるでしょう。やがては「中毒」といいほどゼミにのめりこむことになります。 【成績評価】 司会、報告および討論の内容により総合的に評価します。なお、正当な理由なく遅刻・欠席した場合には単位は認定されません。
教科書	指定しません。ただし、六法は毎回持参してください。
参考文献	開講時に紹介します。
備考	①会社法の基礎、株式会社法ⅠA、株式会社法ⅠBおよび株式会社法Ⅱの講義を履修していない方は、演習と併行して履修してください。 ②レポートの自己紹介文には、プロフィール、長所（短所）、大学入学後に勉強してきたことといった本来の自己紹介のみならず、入ゼミ後にやりたいこと、ゼミに対する熱意といった自己アピールにかかわることについても記述してください。募集人数は必ずしも多くはなく、このアピールによって合否が決まります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	関 哲夫
演習テーマ	刑法の思索を深めてその面白さを味わう
演習内容	刑法の基礎知識を活かして、刑法総論・刑法各論の重要項目を考察し、その面白さが感じられるくらいまで考え抜こう。 ○ゼミ論報告会 4年卒業時までゼミ論文を「学生時代の記念」として執筆しよう ○新聞報告会・空想事件簿 新聞で報道された刑事事件（犯罪）、アニメ、歴史的事件を素材にして、刑法的に考えてみる ○専門報告会 学説・判例において議論されている刑法総論・刑法各論の問題項目を掘り下げて考察する ⇒特定の問題を深く考えることによって、その問題の複雑さ、考える難しさを実感し、自分の考えを固める ○事例検討会 事例問題を検察官対弁護人に分かれて議論し、罪責を考える
教科書	○関 哲夫『講義 刑法総論（第2版）』（成文堂・2018年） ○関 哲夫『講義 刑法各論』（成文堂・2017年）
参考文献	以下は配布の予定 ○佐伯仁志＝橋爪隆編『刑法判例百選Ⅰ総論』（第8版）（有斐閣・2020年） ○佐伯仁志＝橋爪隆編『刑法判例百選Ⅱ各論』（第8版）（有斐閣・2020年）
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高内 寿夫
演習テーマ	少年法を自由に議論する ープレゼンテーション・ディスカッション・ディベートによってー
演習内容	本ゼミナールは、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートという3つの形式によって、少年法を多角的に検討していきます。 本ゼミナールの目的は、少年法に関するテーマで、ゼミ生に、プレゼンテーションやディスカッションの能力を身に付けてもらうことです。 少年法は、講義自体が3年次に配当されていることから、前期は、教員がテーマを設定した上で、ゼミ生には、ディスカッション、ディベートに習熟してもらおうと思います。前期に取り上げるテーマは、非行少年には刑罰を科すべきか保護処分を課すべきか、少年法の適用年齢を18歳に引き下げるべきか、非行少年は実名報道すべきかなどです。 後期は、ゼミ生が取り上げたいテーマを自ら設定して、まず、ゼミ生に、パワーポイントを用いてプレゼンテーションをしてもらいます。その後、ゼミ生が提起した問題について、ディスカッション、ディベートの形式を用いて、自由に議論をしていきます。
教科書	澤登俊雄『少年法入門 [第6版]』（有斐閣、2015年）
参考文献	テーマが決まった段階で紹介します。
備考	[新3年生の応募について] 本ゼミナールはすでに29名のゼミ生が決定しています。新3年生の募集は、2次募集において手続ミスのため登録できなかった者のみを対象とします。 [レポートについて] 参加希望者は、「少年法または少年問題で関心のあるテーマについて」という題で、300字～500字のレポートをまとめ（A4版横書き。用紙は何でもよい）、4月5日（月）午前12時までに、takauchi@kokugakuin.ac.jp に、電子メールで送付してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	高橋 信行
演習テーマ	行政法の最新判例を学ぶ
演習内容	本ゼミでは、行政法の最新判例について学習する。法学部の講義においては、一つの判例を丁寧に分析する余裕はないが、本来、判例の分析は法学部生として必須の課程であるので、このゼミを契機として、判例分析の能力を習得するとともに、行政法の分野にどのような変化が生じているか、という点を学んでほしい。ゼミの進め方としては、前期においては、3～4の判例を取り上げ、参加者全員で判例の読み方・関連文献の調べ方・他の判例との比較・先例拘束性の法理の意義・行政法の一般法理論等について学ぶ。後期においては、参加者が各自報告を行い、その報告を基に全員で討議・検討を行う。新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、授業の一環として夏休み（8月下旬―9月上旬）に1泊2日のゼミ合宿を開催するので、必ず参加してください（正当な理由のない欠席は認めない）。 ゼミの選考はレポートと面接に基づいて行うので、応募に際しては、以下に掲げた課題について1000字程度のレポートを執筆し、メールにて送ってください。なお、指定された面接日時（4月5日10時-13時）に参加できない者は、メールにて高橋まで連絡してください。 【課題】「最近の行政法関連のニュースで興味をもったもの」について *新聞やニュースを調べた上で、行政法関係のニュースで興味をもったものを紹介してください。そして、なぜそれに興味を持ったか？関係する法的争点は何か？自分だったらどのような解決を試みるか？といった点について意見を述べてください。（1000字） また、自分の自己紹介（特技や将来の夢、ゼミに向けての意気込み等）も付記してください。（200字）
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高山 奈美枝
演習テーマ	民法演習
演習内容	この民法演習では民法の基本を習得することを目的とします。民法の基礎についてはある程度すでに学習されていると思いますが、より根本的に考察できるよう、その方法論から学んでいきます。すなわち条文を中心として民法の規定する諸制度、および判例・学説を整理し、より明晰な形で問題を提起・検討を行い、結論を導くことを試みます。またさらなる調査・研究を行っていきけるような力をつけるため、資料収集や発表の方法についても学んでいきます。民法の財産法ならびに身分法のすべてを対象の中心としながら、それぞれの関心に応じた課題を見つけていただいて結構です。 民法は〈私〉の生きるためのルール集合です。それは大変豊かな内容と大きな歴史を有しています。そのようなことも学ぶ機会にしていきたいと思います。
教科書	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	長又 高夫
演習テーマ	前近代の法典・法書を読む
演習内容	昨年に引き続き、御成敗式目を読んでいく。中世社会にうまれた御成敗式目がどのような法典であったのか、歴史的に考察する。前近代社会において御成敗式目が重んじられたその理由を探っていく。歴史好きの学生さんに参加してもらいたいと思います。 進め方としては、まずは 51 か条を 1 か条ずつ解釈して、その内容を正確に理解した上で、律令法や公家法との関係を明らかにする。また、その後に制定された追加法との関係も考えながら、中世法の面白さを知ってもらいたい。 1 か条ずつ独立しているので、今年から参加することも問題はないと思われる。 事前に担当者をきめ、調べてきてきた内容を発表してもらい、質疑応答を行う。また解釈にあたっては、読み下し文と注釈を載せる『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）を参考にすると良い。なお鎌倉・室町期に執筆された式目の注釈書也大いに参考となる。
教科書	『中世政治社会思想 上』（岩波日本思想大系）。ただし担当箇所をコピーするだけでも良い。
参考文献	植木直一郎『御成敗式目研究』（名著刊行会）、長又高夫『御成敗式目編纂の基礎的研究』（汲古書院）、『中世法制史料集』全7冊（岩波書店）ほか
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	姫野 学郎
演習テーマ	判例とその「周辺」
演習内容	授業でも教科書・基本書でも、よく「判例・通説は～である」といいます。「下級審裁判例は～である」という表現に出くわした人もいるでしょう。 「判例」を読んで、必要な中身を把握するには、民法その他の実体法と民事訴訟法その他の訴訟法を勉強済みであるだけでは、実は必ずしも十分ではありません。そうすると、民法と民事訴訟の橋渡しになる知識をはじめ、判例のいわば《周辺》の知識が必要になってきます。たとえば昔の最高裁判所の合議では、分厚い『六法』を投げつけあって大喧嘩した、なんてこともありました。たとえば判決書のなかで「戦後に多く見られる男女関係の余りの無軌道」を大まじめに憂えた最高裁判事もいました（踏んだり蹴ったり判決）。 いろいろ小難しいことを書きました。この演習は、民法は総則・債権各論までは習ったことがあり、民事訴訟法はまだ勉強したことがない人をいちおうの対象にしています。でも、受講者の方向性・希望等にあわせて柔軟に運営していきます。やる気のある人、好奇心おう盛な人を待っています。 当日都合が付かない等締め切り前の質問その他は ghimeno@live.jp（私）か himenozemi@yahoo.co.jp（ゼミ生）に宛てて送ってください。
教科書	『民法判例百選』
参考文献	内田貴「民法」、大村敦志「新基本民法」
備考	3回以上無断欠席した者には単位を与えない。

[【目次に戻る】](#)

教員名	平地 秀哉
演習テーマ	現代の人権問題
演習内容	このゼミで勉強する内容や方法などは、教員からあらかじめ縛りをかけることは本意ではないので、例年参加者の話し合いによって自由に決めてもらうことにしています。したがって、来年度の内容として紹介できるものは今のところありませんが、参考までに2020年度の例を紹介すれば、前期は信教の自由と政教分離、後期は外国人の人権保障や人権の私人間効力に関する諸判例を素材にしました。 2020年度のゼミの進め方は次のとおりでした。まず、報告担当者(2～3人組)と、報告する判例、報告日を決定します。そのうえで、事前に報告予定の判例(判例集など)を全員に配布し、目を通しておいてもらいます。報告担当者には、そのテーマについてレジュメ作成の上、一通りの報告・検討をしてもらいます。その後、全員で報告についての質疑応答をします。 なお、本年度は、前期中に週2時限ずつゼミを行って前期中に通年分を終える、前期集中授業となる予定です。また、例年ですと、夏休みに合宿を行い、また数回の飲み会を行っていますが、本年度については、スケジュールや社会的状況をみて、可能であれば開催することにはしたいと思います。 成績は、平常点評価です。毎回出席を前提としたうえで、授業時の報告の出来、発言の頻度・内容などを考慮して評価します。したがって、本ゼミが求めるのは、憲法に関する高度な知識や学力よりも、ものを考え、それを積極的に言葉で表現する意欲、そして仲間との協調性ということになります。読み書きが得意であるのに越したことはないですが、元気でよく話す人ほどこのゼミに向いていると言えます。
教科書	特になし（適宜配布します）
参考文献	特になし（適宜配布します）
備考	演習の欠席は原則として認めません。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に申し出るようにしてください。 なお、選考面接の日時に都合のつかない者は、その旨を選考レポートに記載してください。教員から連絡の後、別途面接日時を指定します。

[【目次に戻る】](#)

教員名	廣瀬 美佳
演習テーマ	私たちを取り巻く社会と医療と法(仮)
演習内容	本演習では、基本的には、初回の授業で履修者と相談の上、その年度のテーマを決めることとなります(2020年度は、一応、担当教員の方で、本人のライフワークであり医事法の授業でも講義しているところをテーマに掲げたところ、これに興味をもった学生が応募・履修することとなりましたが、その後、新型コロナ・ウイルス禍に見舞われ、前期が始まる頃には、新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正をはじめ、感染症対策をめぐる法制度が話題になっていたことから、「感染症対策と法」をテーマに据え—途中で当該テーマのままでよいか、どのようにアプローチしていくかなどにつき、適宜確認を取りながら—進めています)。 ですので、2021年度についても、上記のように、医療問題を一応のテーマとしておきますが、面接時に履修(希望)者それぞれがどういった方面に関心を持っているか等につき把握した上で、最終的には、年度初回の授業時に全員が顔を合わせたところで(いわゆるリモートではなく、教室で直に御目にかかれるといいのですが…)、全体テーマ/個別テーマ、半期ないし通年のゼミの進め方などにつき、相談の上、決定する予定です。但し、担当教員の専門性との関係で、医療問題ないしその周辺を扱うこととした方がよりスムーズなゼミ運営につながるでしょうし、例えば憲法や刑法は全くの専門外ですので、いずれにしても、民法や医事法プロパーな法律を中心に勉強することになるものと思われます。
教科書	授業時等に適宜指示します。
参考文献	授業時等に適宜指示します。
備考	(01) 事前の志望理由等提出について： 必ず、提出締切日である 2021. 04. 02. (金) の 14:00 までに廣瀬のアドレス宛に送付・着信すること。折り返し、面接用の Zoom の招待状をお送りします。 (02) 選考日時について： 事情により当該日時に面接を受けられない場合は、予め、その旨申し出ること(面接の終了時刻は応募人数により前後するため明記しない&面接に要する時間は応募者1人につき15分程度を目安とします)。 (03) 履修者数について： 参加者全員による議論を成立させるため、現2・3年生合わせて20名程度を上限としたい。

[【目次に戻る】](#)

教員名	福岡 英明
演習テーマ	簡単な事例問題を利用して基礎知識を確認し思考力を高める
演習内容	「フォーカス憲法」という簡単な事例問題集を利用して、基礎知識を確認しつつ、事例の分析力、問題解決能力や表現能力を高めることを目標とします。 事例問題を解くために必要な基礎知識である学説や判例を確認し、それをどのように利用するかを練習します。 毎回、1問解くことを目標としますが、はじめは、1問につき2～3回かかると思います。とくに担当者は決めずに、担当教員も含めて参加者全員で自由に議論したいと思います。 具体的な事案に取り組むことを通して、法律学のおもしろさを再確認してもらいたいと思います。 気軽に参加してください。
教科書	加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編著「フォーカス憲法」北樹出版
参考文献	教科書の各項目ごとに挙げられている。
備考	夏休み中の合宿は予定しておりません。

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ナショナリズムの現在・過去・未来
演習内容	「グローバル化」の時代といわれる今日においても、ナショナリズムは弱まる気配はなく、むしろその影響力を増しているように見られます。また、ナショナリズムは、日常生活での情緒・感情と結びついた現象（スポーツでの代表チームの応援など）であると同時に、国際政治を左右するような高度な原理という多面的な性格を持ち、そのあらわれ方も時代や地域によって大きく異なります。本演習では、主に政治現象としてのナショナリズムに焦点を合わせ、その歴史的変遷や多様なあり方、今後の展望などについて考察してみたいと思います。授業の進め方としては、前期はナショナリズムをテーマとした必読の新書・概説書、後期はナショナリズム論の古典的文献を全員で読み進めます（輪読形式）。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告も予定しています。また、初回の授業時に、各回の報告担当者／担当班を決定し、第2回目以降、主に担当者の報告と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。
教科書	塩川伸明『民族とネーション』（岩波新書、2008年）、藤原帰一『戦争を記憶する』（講談社現代新書、2001年）、オリヴァー・ジマー『ナショナリズム 1890－1940』（岩波書店、2009年）など。
参考文献	授業の中で適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮内靖彦
演習テーマ	国際法の現代的問題
演習内容	国際法の現代的問題を扱う本で取り上げられている争点を分析していきます。各章の叙述を分担して要約し確認することを皮切りに、関連文献を追跡し読み、国際法の様々な分野について、論点の背景の理解や叙述の妥当性を分析していきます。国際法の制度や先例を踏まえつつ、本質や機能を考えることが重要です。報告の際は、調べてきたことをうまく組み合わせて、相手や聴衆を説得すること、相手の主張に反論し覆すことが必要です。これらの作業を通じて、理屈の立て方や説得の仕方を修得することができます。 (応募手続) 応募者は、K-SMAPY II から応募するとともに、<u>直ちに KEAN のメールアドレスから宮内に応募した旨のメールを送ってください（メールの件名を、「ゼミ3次募集への応募（お名前）」としてください）</u>。そのメールへの<u>返信メール</u>を送りますので、MS Forms の面接アンケートの URL 、Zoom ミーティング情報・面接時間・方法を確認してください。 <u>4月3日（土）午前9時00分までに MS Forms の面接アンケートの URL にアクセスし、KEAN のアカウントでログインして、回答してください。</u> また、面接日は、所定の面接時間に KEAN のアカウントを使って、Zoom でアクセスしてください。
教科書	森川幸一（他）『国際法で世界がわかる-ニュースを読み解く 32 講』（岩波書店、2016 年）を予定。
参考文献	
備考	宮内との連絡は、KEAN のメールアドレスを通じて行いますので、メーラー、またはブラウザで KEAN のメールサーバーにアクセスして、メールを確認してください。これらを確認しても、来るはずのメールが来ていない場合は、宮内まで問い合わせてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮下 大志
演習テーマ	「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来」
演習内容	日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。 日本の政治と民主主義は、かつては「55年体制」のもと、かわりばえのしない、そしてあまりよくないイメージで見られてきました。しかしみなさんの生まれる前、その「55年体制」が崩れ、また日本の置かれた状況の変化もあって、55年体制の自民党長期政権の時代とは違う要素も出てくるようになりました。一応、政権交代も起こるようになりました。 しかし、近頃の政治を見ていると「本当に変わったのか?」、あるいは「進歩はしているのか?」と首を傾げてしまう気持ちも湧いてきてしまいます。 そこで、来年度のゼミではこの日本の政治・民主主義について、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。 そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということを行なう予定です。 そしてその際には、欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。 なお、応募者は、「これまでもっとも興味を持った講義」という題目で、これまで履修した講義のうち、もっとも興味を持った講義について、その内容を紹介しながら、そこから自分が何を考えたかを記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。 なお、現ゼミ生は選考を免除します
教科書	開講時に指定します。
参考文献	必要に応じて紹介します
備考	面接は、zoom を使ったのオンライン面接となります。個別面接ですので、全体としては4/3（土）の13時開始ですが、一人一人の面接開始時間は異なります。zoom 面接の URL と、個人の面接開始時間は、レポート提出したアドレスへの返信で前日に通知します。通知した開始時間の2、3分前にログインし、待機してください。 なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、遅くとも14:30には最後の面接を終えられるかと思います。

[【目次に戻る】](#)

教員名	岡田 康夫
演習テーマ	判例で学ぶ不動産法
演習内容	不動産は、我々の生活に欠かせない重要な財産です。近年は、空き家対策、負動産化、所有者不明土地問題といった問題が生じており、これらに対応するために法改正などが活発に進められています。民法の物権編も、改正されようとしています。そこで、不動産をめぐる裁判例を題材にして、民法（と、もしかしたら少しだけ行政法）を学びましょう。 『不動産法入門』という本の目次から、不動産法がどんな分野なのか眺めてみましょう。「不動産の取引」「不動産の所有」「不動産の利用」という3部構成になっています。物権法を学ぶ、とは限りません。不動産の取引には、売買契約や売主の担保責任、宅建業者の重要事項説明義務などが登場します。不動産の所有には区分所有（マンション）の法律関係や土地の境界をめぐる争いなどが含まれます。そして不動産の利用の中心となるのは、不動産賃貸借、つまり借地や借家の問題です。このように、民法講義が総則・物権といった法典順の学習方法なのとは違った切り口で、民法の様々な事柄を学び直すことができます。ちなみに不動産の所有には、都市における不動産の開発に関する事柄も出てきます。これは行政法にあたります。不動産に関する事柄は、とても幅広いのですが、重要な裁判例を読み、出てくる事柄を少しずつ学んでゆきましょう。 なお、このゼミで取り上げる裁判例は、最高裁のものには限られません。地裁や高裁の裁判例も取り上げます。 受講人数によって変わりますが、原則として複数のゼミ生で判例発表を行い、その内容をもとにみんなで議論していきます。 コロナ感染症流行のため、コンパや合宿などがやりづらい状況にありますが、可能であれば、これらを実施して親睦を深めたいと考えています。さらに、都内の重要不動産の見学も、構想しております。
教科書	特になし
参考文献	秋山靖浩『不動産法入門』（日本評論社、2011年）
備考	・ゼミの主役はゼミ生です。不動産（法）に関心を持ち、学びたい意欲のある学生を歓迎します。 ・出席は必須です。正当な理由のない欠席が続く場合は除籍等の対応をすることがあります。

[【目次に戻る】](#)

教員名	高橋 真人
演習テーマ	実践できる法律知識の修得
演習内容	不動産登記は、住宅の購入やそれにとまなうローンの利用、親の死亡による相続などの際に利用される極めて身近な法制度である。不動産登記というと、民法の文脈では争いを前提として権利の優劣の判定をする気難しい制度として登場する。しかしこの制度は争いを起こさないために作られたものであり、本演習はこれを民法の物権変動論ではなく、仕事や生活で不動産登記を必要としたときに、実際に何をしたらいいのかの「スキル」を学ぶ。具体的には、与えられた事例について実体法的にどのような法律関係が生じたかを考え、そのうえで登記の手続を実践的に考えて学習していくものである。 宅建業や銀行等、不動産をめぐる権利関係への法律知識を日常的に必要とする仕事を目指す者や、宅地建物取引士や司法書士等の資格取得を目指す者を歓迎する。なお、本演習の履修にあたっては、不動産登記の手続の前提である民法の相続・物権・債権・相続について、履修済であるか履修予定であることが望ましい。 ＜選考方法＞ 現ゼミ生はレポート提出を免除します。
教科書	なし
参考文献	集中講義「不動産登記法」 齋藤隆夫著 成文堂
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	森川 隆
演習テーマ	会社法論点講義
演習内容	【内容】例年と異なり、Zoomを使ったオンデマンド方式で行います。 具体的なゼミの中身については現在詰めている最中ですが、少なくとも特定の判例や論点についてゼミ生全員で議論するという方式は採りません。教員が株式会社法法の特定のテーマについて講義をし、ゼミ生の皆さんにそれについての簡単なレポートを提出してもらう（併せて皆さんからの質問に答える）という方式を考えています。 また、ゼミ生の皆さんとのコミュニケーションは k-smapy II（クラスフォーラムやQ&A）を通じて行うこととなります。ご理解いただきますようお願いします。 【その他】 「会社法の基礎」を履修していない人は、必ず演習の履修と併行して同講義を履修してください。
教科書	特定の教科書を使用する予定はいまのところありません。
参考文献	開講時に紹介します。
備考	募集は現在ゼミ履修中の新4年生限定です。 就職活動での欠席の取扱などはこれまでのゼミの方針を踏襲しますし、その他の点についても2020年後期のゼミの時間に鈴木先生から説明があったとおりです。